

なかしまじゅうきやうどう
株式会社 中島重久堂

日本の品質を世界へ より鋭い切れ味を追求

海外
発注可
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン

業務
内容

鉛筆メーカーからも
絶対の信頼

戦前から、樹脂製小型鉛筆削り器一筋の中島重久堂。文房具業界では、鉛筆削り器といえばNJKブランド」という認識が定着している。はっきりとした国内シェアは明らかではないが「この文具店にもあるのでは」と中島社長は話す。

OEM商品も手掛けているが、特に鉛筆メーカーからの信頼度は高い。

例えば、芯のやわらかい色鉛筆を粗悪な鉛筆削り器で削ると仕上がりが悪くなり、鉛筆自体の質が悪いと勘違いされてしまう。そこで同社の製品をセットにして売出すメーカーが多いのだ。



芯が折れないだけでなく、美しい円錐形に削りあがる

強み

1mm単位の製造技術で
質の高い削り器を

同社の強みは、社内で設計から製造までを一貫して行っている点だ。刃と樹脂成型品をそれぞれつくって組み合わせる、という感覚ではなく、「鉛筆削り」をつくっている、という自覚があつて初めて質の高い削り器ができるのだという。芯を損なわずなめらかに削ることができ、美しい円錐形に仕上げるために、刃の鋭さ以上に刃と樹脂成型品の寸法誤差を1mm単位で調節している。

人材
育成

製品チェックは
経験と熱意が決め手

また、初めての国や地域に出かけた際は、必ず文房具屋に寄って鉛筆削り器を購入するという中島社長。自社製品より優れた製品にはまだ出会っていないが、もし見つかったら、なぜこんなに切れ味が良いのかを調べ自社製品を改良するつもりだと語る。

同社の製品は、納品前に従業員が厳しく検査している。刃に凹凸がないか、樹脂成型品に正しくセットされているか等、指先の感覚と目視でチェックする。これは機械では不可能な作業。長年の経験と熱意があつてこそ、スピーディかつ正確に作業できるのだ。「子どもや孫に使わせて、恥ずかしい商品をつくりたくない」という思いが同社を動かしている。

今後の
展望

高品質の文房具を通して
世界に貢献したい

今後は広く世界に同社の商品を売り出していく考えだ。国内市場においても、ドイツ製品が大方を占めていた中で、シェアを塗り替えてきた実績と自負がある。

特に「ASEAN諸国の子どもたちに使ってほしい」と中島社長。アジアの子どもたちは質の良い文房具で学習していることが多いが、高品質のものを使用すれば、文房具とはこんなに楽しいものなのだとわかり、勉強も楽しくなるはず。製品を海外へ輸出すること、文房具を通じた世界貢献と文房具の地位向上を志している。

COMPANY PROFILE

株式会社中島重久堂

大阪
24

当社の
歴史

創業は昭和8年。ダクトロイド樹脂の製造方法を編み出し、パイプ等を製造することから始めました。その後、昭和15年に鉛筆削り器の製造を開始してからは、これ一本に絞って改良を続けています。今後は海外に向けてプロモーションを開始予定です。「鉛筆削りといえばドイツ製品」の常識を覆すべく、勝負していきます。

「世界中のメーカーがライバル」の心意気で、より良い切れ味を追求し、精進しています。

代表取締役 中島 潤也さん



■主な事業内容
樹脂製小型鉛筆削り器の製造・販売等

住所 / 〒580-0046
松原市三宅中
7-3-28
TEL / 072-339-5599
FAX / 072-338-1119
創業 / 昭和8年6月
設立 / 昭和56年7月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 14名

■主な取引先(納入先)
国内主要文房具メーカー等

<http://www.njk-brand.co.jp/>